

第 1 回市民協働推進会議 会議録

日 時	平成 28 年 5 月 15 日（日）10:40～11:45
会 場	広葉交流センター 1階 交流室 2
出席委員	大橋弘昌会長、井関薫子委員、竹村画二委員、前田智加委員、加納明美委員
欠席委員	なし
市出席者	【企画財政部】川村次長 【企画課】橋本課長、柴主査、安井主事

1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、会議が成立していること」を確認した。

2. 会議録署名委員の選出

議長の名指により、前田委員を第 1 回市民協働推進会議の会議録署名委員としたい旨提案があり、了承された。

3. 報告事項

平成 28 年度公益活動事業補助金及び協働事業提案制度の募集について

<資料 1 に基づき事務局より説明>

○事務局

平成 28 年度の公益活動事業補助金と協働事業提案制度については、4 月 1 日から市のホームページ及び広報北広島に掲載し、4 月 28 日まで募集を行いました。しかしながら、今年度については、申請はありませんでしたのでその旨報告いたします。

なお、問い合わせについては、市内団体から「子ども食堂」の開設について相談がありましたが、これから開設に向けて検討するということであり、対象団体要件となる「1 年以上の継続活動」に該当しないことから申請には至りませんでした。

<質疑応答>

なし

4. 協議事項

平成 27 年度公益活動事業補助金実施事業評価について

○議 長

それでは、平成 27 年度公益活動事業補助金の実施事業評価について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

この事業評価は、北広島市公益活動事業補助金交付要領と事務要領と審査要領に基づいて行うものです。お配りした「事業評価シート」をもとに審議をしていただくこととなります。項目ごとに委員一人ずつから一言ずつもらい、5 人全員が終わったら、補完していただく形となります。

3 項目については、最終的に委員 5 名の共通認識の下で総合評価をしていただくこととなります。

第1回市民協働推進会議 会議録

○議 長

今の説明に関して、質問やご意見はありますか。

○委 員

《質問・意見なし》

○議 長

それでは、「NPO 法人 くらしの研究会」について、事業効果について、4段階評価で評価していただきたいと思います。

A委員から順番に、事業効果についてお願いします。

○A委員

事業効果に関してということですが、効率性とかについてはあまりわからないので、全体的な感じとなりますが、結果を見たところ魅力が足りないとも感じられました。人の声は、それなりに魅力を持っているものだと思います。講師の先生にもお会いし、授業風景も見てみましたが、カリスマ性の無い指導者には難しいものと感じられました。

○議 長

次に、B委員、いかがですか。

○B委員

プレゼンを聞いたところ、この段階で、もう予算がないからダメだという感じに私には聞こえました。せっかくこの会に対し、より良く発展していってもらいたいという希望で、昨年予算を提示したかと思いますが、最後の結果では、失敗したようにも聞こえてしまいました。評価として、事業の一つとして見れば、朗読劇は成功されたと思いますが、一つ一つに対しては、生徒にしても、北広島の郷土データを作ったりしているので、評価はしてあげたいと思います。もっと厳しい評価も考えましたが、活動としては充実していたと思います。

○議 長

この会の活動に関しては、やはりB委員が感じられたとおり、とりあえずは、朗読劇で当初計画していた事業は、完結したという評価をしたいと思います。

○C委員

話が飛びますが、協働の根本は、コミュニティだと思います。隣近所や町内会みたいなものですが、それを支えるのが、今後は人と話すコミュニケーションだと思います。ただの会話ですけれど、最近それがあまり得意じゃない人が増えていて、そうなってくると、町内会や隣近所のコミュニティが崩壊してしまうと言いますか、続かなくなって、災害とか、いろいろな事件があった時にマイナスにどんどん発展してくと思います。その中で、今回の暮らしの研究会さんがされることは大変有意義なことだと思うのですが、皆さんがおっしゃっているとおり、結果としてどうかというと、成功したという方向にあまり行っていないように思います。対象者が限定されていて、補助金を使っていく事業としてはどうなのかなと。せっかく事業としての方向性は悪くないと思うので、中学生でも小学生でも、そういう人と接するのが得意ではない子たちがいるので、対象の人たちがもっと広がっていけば、結果として良かったのかなと思います。

第1回市民協働推進会議 会議録

○議長

それでは、D委員、お願いします。

○D委員

結果としては、中学生たちから、そういった関心を引き出したという意味では評価できると思います。しかし、昨年のプレゼンの時にも感じたのですが、代表者の方の思いが強いというか、前面にかなり出ていて、補助金事業としてはいかなものかと思います。報告会の中では「最後には突き放す」という言葉を何度もおっしゃっていて、「それまでの間は僕がやるけど」ということで、この補助金が無くなったら、また別の補助金をもらってやるのかなとも思いましたが、そうでもなくて、この2年間はなんだったのかと思います。効果は見られますので、その部分をどのように今後していくのか。3番目の評価にも関連してきますけれども、その部分で釈然としないものがありました。

○議長

それでは、少しフリーディスカッションをしていきたいと思います。

これまでの話しでは「あまり評価しない」が多いですけれども、もう少し補完される方はいらっしゃいますか。

○C委員

2番の「概ね評価する」で数字が全てではないですが、結局評価する一つの指標として、人数にどれだけ貢献したか、そういう意味でいけば、参加人数があまりにも少な過ぎて、それでいけばあまり評価しないの方かなと思います。2番と3番に偏っていますが、毎回出られている方は9人とか8人とかで、延べ270人となっていますけれど、実際は、10人以下のことが多く、あまりにも限定されていると思います。

○議長

4、5人でもいいから、少しずつ数が増えていくとかであれば良かったですね。それと、イベントで参加される人とかも、波及効果が35人というのは寂しい気がします。

○A委員

講師の人と一度お話しをしたことがあるのですが、「人を元気にさせるとか、喜ばすとか、そういった話しを題材にした方が良いのでは」と言う話を聞きました。「話の内容が暗かったりしたら、何も嬉しくはないし、元気も出ないよ」って言いました。でも「そういう事も知ることは必要だ」という回答でした。その辺は譲らないのですよね。だから、それを聞かされる方は、こういう事があったのだなとは思いますが、何も楽しくはないと思います。

○C委員

どちらかというと言滑舌を良くする方に力を入れているようです。でも新しく参加される方にとっては、A委員が言われるように、惹かれるものとか、安心感があって、それで後で現実にはこういう事もあったんだなという方が良かったのかもしれない。

○B委員

何事にも、例えばスポーツをするのにも初級とか中級とかがあります。今回の事業はあまりにも上級すぎたのではないのかなと思います。年齢層で言えば、幼児から老人クラブまで、いろいろな話題があると思います。この事業に参加されて、あまりにも大人向けだったというか、

第1回市民協働推進会議 会議録

幼児向けのテーマなどもできると思います。そのバランスというのが、十分に団体のトップたちができていない。上級すぎる内容と、年齢層も固定しすぎた部分があると思います。中学生とかそのくらいの年代だと、ある程度理解できるとは思いますが、持続させたい団体と思うのであれば、もっと幅広く見ていただきたかったと思います。まずは、土台を作らなければならなかったのに、土台が出来上がらなかったのかなと感じました。

○C委員

加納さんが言われるように、技術の延長と言うか、読み方とか滑舌とか、テーマは何でもいいという感じで選んで、楽しくいきたいといった雰囲気がある。

○A委員

やはりこのように進んでいきたいという事を、ある程度分かるように、お伝えしておくべきだったと思います。伝えたい部分でも少し課題があるのかなと思います。

○B委員

先ほどからも、同じようなことを申し上げているかと思いますが、やはり私たちが審議した結果を団体にきちんと伝えて、去年の資料もいろいろと見直しして、もう少しお聞きしたい事もありましたが時間が足りなかったです。でも、もっとやり方があったかなと。工夫がやはり足りなかったと思います。

○D委員

今回の事業については、公金を使ってやっているのですが、提供したものに対して、地域が何らかの利益を得られるっていうのが、先ほどC委員がおっしゃっていましたが、人数に反映してくると思います。人口5万9千人の北広島市で、生徒さんは10人前後、見学に来てくださった方が30人とかってなった時に、果たしてそれが事業としては、少し厳しかったのかなと思います。でも、もしそこで、補助金が無くなっても来年も続けますというのであれば、それはそれでスタートアップの補助金として有益であったと思えたのですが、「突き放します」とおっしゃってましたので、そこに問題があると思います。

○B委員

私は質問の中で、事業が持続できるような生徒さんがいらっしゃるんですかと確認したのですが、思ったような回答は無かったですね。自分の思いが入り込んだ回答となっていて、この1年間でそういう人たちを育てていかなければならなかったかなと思います。予算が無くなるというのはわかっていたことなものですから、ただ講師を予算で呼んだっていう感じではなく、1年間は土台を作ったんだから、持続するようにしてほしい。

○A委員

団体としては、自分で書いたという「志徳の人」を朗読する人を集めて、それを発表したかったのでしょうか。すごく一生懸命に書かれたものだと思います。

○D委員

老人クラブに対しても、早口言葉をみんなに喋らせたりと、良い効果が望めそうな感じがしました。すごく良い活動だと思ったのですけれども、自分の書いた本を誰かに読ませたい。それが本心だったのでしょうか。

第1回市民協働推進会議 会議録

○C委員

自分で話下手だと思っていたりとか、声が思ったように出ないとか、滑舌が良くなると人と話してみたくなると思いますが、A委員が言われたような延長線上で見えていくと、結果としてそういう方向性が無いとなると「概ね評価する」と「あまり評価しない」の間くらいになりますよね。

○議長

いろいろな意見が出ましたけれども、今回は「あまり評価しない」ということでしょうか。ただ、活動自体はいろいろなところでご苦労もあったと思いますので、当初考えていた期待値に対して、少し物足りないということで「あまり評価しない」となるでしょうか。少し辛口の評価かもしれないですけども、そのようなことでよろしいでしょうか。それでは、この後、C委員から効率性の設定についてお話をいただいてもよろしいですか。

○C委員

先ほどのお話と重複してしまうのですが、事業効果としてあまり参加者が多くないと、人数が少し少な過ぎるのかなと思います。それから、毎回9人前後の参加者のうち、元々この団体に加盟している人が何人含まれているのかわからないですし、9人全員が新規でこの教室に参加されたのかどうかもわからないので、効果としてはあまりにも参加人数が少ないと思います。あと、会長も言われていましたけれども、最後の発表会は10名くらいなのですが、この手の事業としては、最低でも100人くらいは集まった中で応援していただくようなイメージがいいのではないかと思います。あと、皆さんもいろんなことに関わっていて、人に告知するとか、宣伝するといったことは大変だと思っておりますが、宣伝・PRの方法が違うのか、一般的には知られていないと思います。例えば、町内会回覧とかであれば、そんなに金額はかかりませんが、各世帯に行き渡ります。そういった方法を使うとか、もう少しPR方法を考慮した方が良かったのではないかと思います。

○議長

D委員、いかがでしょうか。

○D委員

昨年は確か、ポスターが立派過ぎるということをお話しさせていただき、今年はその部分では貼ってあるポスターを見ますと、手作りした感じのものになっていまして、実践して下さったんだなと思いました。やはりそういうものの印刷とかは、結構な値段がすると思います。結構値切りましたとは言っていましたけれども、結構なお値段です。さきほどC委員もおっしゃっていましたが、もう少し原価で、かつ市民の皆さんに行き渡る方法で、町内会の回覧で回していただく方法は結構いい考えだと思ったりしました。例えば補助金をもらっているのであれば、発表会のバックアップで教育委員会が入ってくれば、学校だって配ってくれますよね。あと、公的機関も嫌がらずにやってくれますし、そのあたりとかも改善できる場所として、もうひと頑張りかなと思います。なんといってもやはり講師は2名必要なのか、ここですね。ほとんどは講師の謝礼代です。

○議長

ありがとうございました。それではA委員、お願いします。

第1回市民協働推進会議 会議録

○A委員

生徒さんたちが1年前とそんなに変わっていないのです。だから、講師に払ったお金が成長にあまり役立たなかったのかなという印象になります。それはどうしてかっていうと、その教育システムを今回の団体が作ったのだと思いますが、そのやり方に効果がないことに早めに気付かず、ずっとやり続けているというところが気になりました。実際、教育することって、とても大変だと思いますし、すごくたくさん知識がいることだと思います。

○議長：それでは、B委員、お願いいたします。

○B委員

とにかく、事業の経費で見ると、昨年も皆さんと色々なお話しをしたかと思ひまして、昨年のいろいろな内容と比べていたのですが、内容的には全然変わっていませんよね。何か一つでも、そのポスターの方法にしたって、努力したところが見受けられればと思ったのですが、数字的にも全然変わっていない。トータル的に収入と支出が同じでも、内容・使い方で努力して減額した分をこちらに回したというものが、一つも見受けられれば良かったのかなと思います。あまり努力はされなかったかなと思ひました。本当は「評価しない」の方に気持ちはあるのですが、例えば、前の評価表じゃないですけども、「5」とつけても、それがマイナスなのか、プラスなのか、微妙な部分ですよ。本当に努力なさったってということは、切実にわかる部分があるものですから、少し甘く「あまり評価しない」の方にしたのですけれども、厳しく言えば、本当は「評価しない」でしょうか。努力が見受けられなかったかなと思ひます。それと、講師についてですが、先ほどもありましたので、繰り返しになりますが、講師の料金があまりにも高い、しかも送迎もする。もう少しボランティアの方を見つけるとか、見つけようとしたけどだめだったとか、そういうご回答があれば良かったのですが、特に何もなくて、昨年と同様にと淡々とお話しをなさっていて、これだけ努力したんですよというところが感じられなかった。本当は評価を受けるために来ているのですが、それにも関わらず、そういうお話が何も無かったので、少しどっちに付けたら良いのか迷い、「あまり評価しない」にしました。

○議長

ありがとうございます。私はいつも甘いのですけれども、私は「概ね評価する」です。額の持ち出しとして言えば、用紙は全部「くらしの研究会」がなさったということですが、講師の関係はいろいろなご意見もありました。この費用対効果の面で、40万円という補助金を使った効果として、妥当だったのかどうか。少し意外だったのが、A委員から「生徒さんの成長が無かった」ということで、生徒の話や感動的な話がなかったというのが意外でした。

それでは、フリーディスカッションを交えて、少し深めていきましょう。

○B委員

毎回数字の話で申し訳ないのですが、例えば決算書のところで、支出の方は、ただ印刷代いくら、トータルでいくら、というようにあるのですが、例えば印刷部数は具体的に何部だったのか、明細を補足していただけたらなと思います。先ほど前田さんからお話しがあったように、今2回目しか掲載していないので、車代などに費用が掛かったのであれば、回数を細かく記載していただいた方がいいのかなと思います。普通、事業報告っていうのは、自分たちがたくさ

第1回市民協働推進会議 会議録

ん実施したっていうのを多めにしたがる傾向があると思いますが、例えば、この「陽だまり」でも、往復2回っていうのがあります。本当に団体の言われる回数で陽だまりさんにとっていのであれば、9万円をその回数で割ると、陽だまりさんへの総額が出ると思います。実数3回くらいなのかなと思います。通常であればこういう公的な助成金をもらうのであれば、そこまでの明細を記載しなければならないと思います。

○A委員

NPO 団体としての決算書の中では、必ず事業決算で附表というのを作っているのですが、それと比べると、少し簡易ですよ。しっかりやってもらいたいです。

○事務局

今、お話もありましたので、決算書の摘要欄には積算根拠として、単価いくらで、数量は何部で、中身はこれですというように書き入れることは問題はないので、そういう書き方で出してもらいように、今後指導していきたいと思います。

○議長

他にいかがですか。効率性というところで何かございますか。

○D委員

キャッチコピーだけをもってきて、歌い手とか、ものを書いている人って、そういう傾向があると思います。人を引っ張るようなインパクトがあるってというのは事実ですよ。それを見て、これが朗読劇の特徴だと。

○議長

それでは、だいたいのご意見が出たのかなと思いますが、「評価しない」が1人、「あまり評価しない」が3人、「概ね評価する」が1人ということで、「あまり評価しない」が3人ということですので、「あまり評価しない」にしたいと思います。

それでは、(3) 今後の団体活動への寄与について、B委員からお願いしたいと思います。

○B委員

色々試された結果だとは思いますが、今回はトータル的に今後のことについては、これは厳しく「評価しない」ということでチェックさせていただきました。この会議の中でも個人的には成長はあったのかなと思います。団体としての最後の説明を期待していたのですが、「予算がかかっている」「財産をこういうふうになっている」ということで、生徒さんの気持ちはどうなのですか、という問いかけに対しては、残りたいという方が2名いるとはおっしゃっていましたが、その人たちがどのような思いで、という回答が得られなかったのが、とても残念だなと思いました。その人たちの声も本当は聞きたかったです。今後もやりたいという気持ちを伝えていただきたかったです。話しを聞いていると、今後は消滅してってしまう団体なのかなというふうを受け取れてしまったものですから、なかなか期待はできないのかなということで、厳しく「評価しない」ということにさせていただきました。

議長：ありがとうございます。加納さんお願いします。

○A委員

補助金とかでなくても良かったのかなと思います。でも、本当は将来性が無いのかなという感じがします。やはりお金が潤滑剤となっていて、無ければやらないというのが本音だろうと

第1回市民協働推進会議 会議録

思います。それであればお金を満たすような方策を考えなければいけないのですが、お金が無くなったら終わりという雰囲気だったので、少し残念です。

○D委員

団体の概要として、このNPOは、「くらしの研究会」ということで様々なことをやっているのですが、逆に私は去年この事業で申請してきた時に、これらの事業と朗読劇が、どのようにリンクするのか違和感を感じていました。それで、なんとか「コミュニケーションは社会活動に必要な」というようなところで、安心安全な生活だとか、暮らせることで健康だとかを取り入れているのかなという感じがしました。この事業は、この団体にとっての継続的な発展には寄与しないだろうというふうに私は評価しています。なので「評価しない」。翌年度以降の当該団体の技術的な発展を促す有益な事業補助であったかということと本当に疑問が残ります。

議 長

それでは、C委員、お願いします。

○C委員

団体の目標としている方向というか、最終的に行こうとしているところと、そこに行くまでに自分たちがしなければならない部分が、ちぐはぐな感じがして、最初にこの市民協働委員をさせていただいた時に、この協働事業の趣旨というのは、お金があつたらすとかしないとかではなく、自分たちがこういう事をやりたいからぜひ協力してください、というような趣旨だった気がするのですが、今年は予算が付いたからしますけど、来年は無いのでしませんというのは、最初のスタンスから、この事業の趣旨には合わなかったのではないかなと思います。団体のほうでもそれは加味されているとは思いますが、協働事業ということで実施するものだと思いますので、最初とは違うのではないかなと思います。

それと、A委員や皆さんも言っていますが、自分たちは手取り足取りはしない。最終的に参加してくれている人たちが自主的にやるものだ。そうでなければいけない。というのはわかるのですが、そういうふうに自分たちの目標を掲げているのであれば、参加した人たちに、そう思ってもらう啓蒙が全然足りないと思います。呼ぶだけ呼んでおいて、あなたたちはこれから自分たちでやらなければだめだよ、と急に言われても、それをみんなが自主的にやってもらえるような話しを団体としてしっかりやっていって、最終的に参加される生徒さん達が、団体に頼らず自分たちでこういうのをやりたいんだっていうように持っていく方策を、しっかりとしなければいけなかった。

それから、教育委員会に行って話をしたけれども、あまり良い返事がなく、断られたという事でしたが、その場にいたわけではないのでどういうふうに言われたのか分からないですけれども、「こういうような事をやっているから採用した方がいいんじゃないですか」となんだか他の人がやっているのを紹介しに行くような言い方に聞こえてしまったので、もし自分たちがどうしても、これはとてもいい事だから小学生に聞かせたい、中学生にも聞かせたい。ということであれば、もっと熱意を持った説明の仕方をされていれば、教育委員会の対応も違ったのかなと思います。ちょっと他人事的な対応で、あまりそこには力を入れていないような雰囲気を感じました。

第1回市民協働推進会議 会議録

○議 長

私は「概ね評価する」にしました。結果は概ね皆さんと同じようなことです。たぶん教育委員会の方でも、この活動が、というよりは東広島市との交流事業に使うということに教育委員会に話をしていましたので、もっとこの活動が、発達障害の子どもたちだとか、生涯教育にいいですよ、といった説明をした方が良かったと思います。ただ皆さんが言っているように、いいところもあったのかなと思います。

また、人数の割合でいうと、「評価しない」「あまり評価しない」とありますけれども、意見を変える方ですとか、何か気になることがある方などはいらっしやいませんか。

○B委員

私たちの声を団体の方たちが見て、「もう一度頑張ろう」と思ってくだされれば良いのかなと思います。

○議 長

私たちも団体を潰そうと思って評価しているわけではなく、期待を持って行っているのですが、ただ、ものによっては、あまり評価されないプレゼンもあるのだと思います。

○B委員

参加している人たちが、NPOのメンバーとして参加しているのであれば、意見もきつと言えらと思います。でも、先生対生徒として、この団体に所属しているのであれば、やはり先生の言う事には従わなければならないとも思われますので、私たちのほうからいろいろな意見を出したとしても、それではどうする、とみんなで頭を突き合わせて考えてみるという体制にはならない気もします。

○議 長

そうはならないかもしれませんね。

○B委員

ある意味で、今回の申請者は「話のプロ」をしているわけですね。周りのみんなもそういう扱いをしているとは思いますが、それなのに、例えば、先ほどの報告の中でA委員に手短けと言われてしまったり、周りに対して今自分が話さなければならないことはなんなのか、相手のことを考えてどういうふうに話したら良いのか、というのがあまり上手くない主催者というような感じがします。

○議 長

今回は少し残念な意見が多くて、明るい表現にならないと思います。市民が何かやりたいという時にある程度、公共性を持つ、北広島市にとって良いことだと思うんですね。それが、今回は結果的に尻つぼみになってしまって、あまり評価されないという結論になりましたが、市民協働推進会議は厳しいな、提出しても無駄ではなのかと思われてしまわないか、非常に残念でした。

○A委員

今回の事業については、自分の望みを一番最初に持って来る。そこが問題だと思いました。

○議 長

今までの、お母さん方が幼児のためにやっているような事業については、今でも持続して実

第 1 回市民協働推進会議 会議録

施されていますし、この補助金がより活動や木育に効果を出しているものもあり、過去にはいい効果も出ています。

今回のことをまとめることで、公表するときには皆さんの意見は、前向きな意見として、こうしたら良いのではといった意見が多いので、補助金申請にエントリーするといろいろな意見がもらえますよというように、なってほしいと思います。

今回については、このあたりで終了したいと思いますが、他に委員さんから何かご意見等はありませんでしょうか。

○委員：《意見なし》

○議長

それでは、以上で協議事項「平成 27 年度公益活動事業補助金の事業審査」について終了いたします。

5. その他（次回開催日程についてなど）

6. 閉会

会議録署名委員
